

- | | |
|--|----|
| 1. PERSON 鎌倉中期の天台宗から出た僧で、日蓮宗（法華宗）の開祖。 | 1 |
| 2. 日蓮宗の題目。語義：「法華經に帰依します」 | 2 |
| 3. 日蓮宗で「南無妙法蓮華教」の題目を唱えること。 | 3 |
| 4. BOOK 日蓮の主著で、幕府の執権に日本を亡国から救う道を説いたもの。
元寇を予言、日蓮宗を正法（正しい仏教）、他宗派を邪教とした。 | 4 |
| 5. 仏教が日本にもたらしたものの一つで、葬送の儀式。 | 5 |
| 6. 仏教が日本にもたらしたものの一つで、祖先供養の儀式。 | 6 |
| 7. 仏教が日本の道德観念（モラル）に影響を及ぼした、行為の結果に責任を負う（古神道の感覚的で美的な価値判断から脱却）考え方の一つで、過去の善悪の業（ごう カルマ）に応じて現在や未来の幸不幸が生ずるとするもの。 | 7 |
| 8. 仏教が日本の道德観念（モラル）に影響を及ぼした、行為の結果に責任を負う（古神道の感覚的で美的な価値判断から脱却）考え方の一つで、自分が作った善悪の業の報いを自分自身で受けること。 | 8 |
| 9. 日本の中世文学や遁世者の文学に見られる仏教的人生観・世界観。 | 9 |
| 10. PERSON 平安末期から鎌倉初期の歌僧。俗名は佐藤義清（のりきよ）。
23歳で無常観を痛感して出家。「願わくば花の下（もと）にて春死なむ
その如月（きさらぎ）の望月（もちづき）の頃」。 | 10 |
| 11. PERSON 明治末期から昭和初期、漂泊の自由律句俳人。「分け入っても
分け入っても青い山」、「風の中おのれを責めつつ歩く」。 | 11 |
| 12. 日本の能楽に見られる仏教的価値観。「柔和典雅な優美さ」。 | 12 |
| 13. PERSON 能楽の完成者。父は観阿弥（かんあみ）。 | 13 |
| 14. BOOK 世阿弥が能楽を大成した主著。「その風（の姿）を得て、心より
心に伝うる花」にたとえた書名。 | 14 |
| 15. 世阿弥が『風姿花伝』で説いた、時分の花（若さの美）・当座の花（精
進により得られる美）・まことの花（無心により得られる幽玄の美）。 | 15 |
| 16. 日本の茶道に見られる仏教的価値観。「つつましく、おごらぬ心」。 | 16 |
| 17. PERSON 室町末期の茶の湯（わび茶、茶道）の大成者。 | 17 |
| 18. 茶道の心得で「一生で一度出会うこと」。同じ主客の顔ぶれであっても、
その茶会はその時だけの邂逅として心をこめることを説いた。 | 18 |
| 19. 茶道が重視する「古びて、おもむきがある心」。 | 19 |

T. Q. 「仏教が日本文化に与えた影響とは？」

T. A.

古くは仏教を大陸の先進文化として受容し大きな役割を果たした。また、因果応報・自業自得というそれまでの日本になかった道德観念を与えた。さらに、芸術面では無常観が色濃く西行に代表される遁世者による中世文学や、世阿弥の能楽などの幽玄の美、千利休の侘び茶の心に影響を及ぼした。